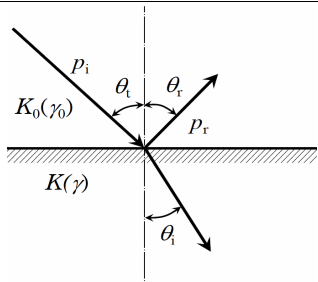
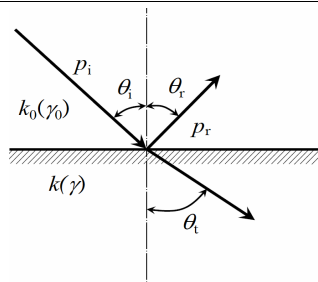
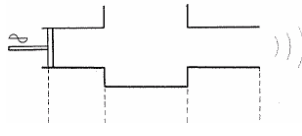
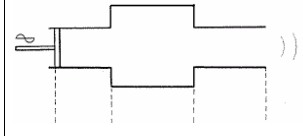


騒音制御工学ハンドブック 正誤表 (2005.08)

頁・個所	誤	正
見返し 目次 ↓ 18	第3章 = 交通騒音・振動の環境対策	第3章 = 交通騒音・振動の環境対策
p.5 式(1.1.8)	$e^{j\theta}$	$e^{j\theta}$
p.6 図1.1.3の縦軸	横軸 A_n	振幅 A_n
p.6 右 ↑ 9	1.1.1	1.1.1
p.36 左 ↑ 13	$\hat{p}(r_0)$	$\hat{p}(r_0)$
p.36 左 ↑ 12	$\hat{p}(r_0)/2$	$\hat{p}(r_0)/2$
p.49 右 ↓ 13	表2.1.12	表2.1.1
p.115 右 ↑ 5	ることが必要である。そのためには以下のような点に留意が必要である。	ることが必要である。特に拡散性の確保が重要な残響室法吸音率の測定には、以下のような点に留意が必要である。
p.121 式(3.3.20)	$\tau_{ii} + \sum_{j \neq i} \tilde{\tau}_{ji} = 1$	$\tilde{\tau}_{ii} + \sum_{j \neq i} \tilde{\tau}_{ji} = 1$
p.121 式(3.3.24)	$\begin{bmatrix} \hat{p}_2 \\ u_2 \end{bmatrix} = \mathbf{F} \begin{bmatrix} \hat{p}_1 \\ -u_1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} \hat{p}_1 \\ -u_1 \end{bmatrix} = \mathbf{F} \begin{bmatrix} \hat{p}_2 \\ u_2 \end{bmatrix}$
p.122 右 ↓ 7	単位面積	比音響
p.126 右 ↓ 19	…考慮して、と式…	…考慮して、式…
p.135 右 ↑ 8	$\tilde{R}_{(4)} = \hat{p}_{(4)}^- 0$	$\tilde{R}_{(4)} = \hat{p}_{(4)}^- / \hat{p}_{(4)}^+ = 0$
p.139 式(3.4.12)	$Z_h = Z_c \coth(\gamma d)$	$Z_1 = Z_c \coth(\gamma d)$
p.139 図3.4.4		
p.144 図3.4.13 タイトル	Helmholtz ~	Helmholtz ~
p.144 図3.4.14 タイトル	Helmholtz ~	Helmholtz ~
p.145 図3.4.15 タイトル	Helmholtz ~	Helmholtz ~
p.144 図3.4.14	R_c	R_s
p.144 図3.4.14	ρ_c	ρc
p.150 左 ↑ 7	$R = 20 \log_{10} \frac{2\rho c}{\omega m}$	$R = -20 \log_{10} \frac{2\rho c}{\omega m}$
p.151 式(3.4.86)の3行下	式(3.5.59)	式(3.4.59)
p.151 式(3.4.88)	$f = \frac{1}{2\pi c^2 \sin^2 \theta} \left(\frac{m}{B} \right)^{1/2}$	$f = \frac{c^2}{2\pi \sin^2 \theta} \left(\frac{m}{B} \right)^{1/2}$
p.151 式(3.4.89)	$\frac{c^2}{2\pi}$	$\frac{c^2}{2\pi h}$
p.153 図3.4.29中央左端の記号(特性インピーダンス)	(Z_{CR})	(Z_{CL})
p.167 左 ↑ 8	0.5, <u>1</u> , 2, 4kHz	0.5, 1, 2, 4kHz
p.167 左 ↑ 5	L_{A50}	L_{pA}
p.167 右 ↑ 4	$L_{A50} = 45 \text{ dB}$	$L_{pA} = 45 \text{ dB}$
p.170 左 ↑ 21	$L_{A50} = 90 \text{ dB}$	$L_{pA} = 90 \text{ dB}$
p.170 左 ↑ 14	$L_{A50} = 80 \text{ dB}$ 以上と以下で ³⁰⁾ , あるいは $L_{A50} = 80$	$L_{pA} = 85 \text{ dB}$ 以上と以下で ³⁰⁾ , あるいは $L_{pA} = 80$

	頁・個所	誤	正
基	p.170 左↑10 左↑4	L_{A50}	L_{pA}
基	p.195 左↓25~26	(因子付加量)	(因子負荷量)
基	p.198 下段, 図4.7.1	図4.7.1(a)と図4.7.1(b)を入れ替える((a)~散布図(b)~樹系図のタイトル位置はそのまま, 図柄のみ入れ替え)	
基	p.263 式(6.1.15)	$= \varepsilon(\mathbf{r}_Q) \phi_i(\mathbf{r}, \mathbf{r}_Q)$	$= \phi_i(\mathbf{r}, \mathbf{r}_Q)$
基	p.263 左↑17	$\phi_i(\mathbf{r}, \mathbf{r}_Q)$	$\phi_i(\mathbf{r}, \mathbf{r}_Q)$
基	p.263 図6.1.3	ψ_i	ϕ_i
基	p.263 図6.1.3	ψ_r	ϕ_r
基	p.279 図6.1.26(a)		
基	p.327 左↓1~2	(地面内での運動)	(紙面内での運動)
基	p.327 左↓3	(地面に垂直方向の運動)	(紙面に垂直方向の運動)
基	p.336 右↓26	でつくり, ~	で吊り, ~
基	p.338 右↑1	表中の V	表中の c
基	p.338 図7.3.2左右中央, 下側	$\rho_2 V_2$	$\rho_2 c_2$
基	p.457 表A.1.1	$L_{AN,T}$	$L_{AN,T}$
基	p.460 表A.2.2 項目→3	密度 ρ [kg·m ⁻³]	密度 ρ [×10 ³ kg/m ³]
基	p.460 表A.2.2 項目→5	特性インピーダンス Z_c [Pa·s/m]	特性インピーダンス Z_c [×10 ³ Pa·s/m]
基	p.460 表A.2.5「密度」の列↑3	1.017	1.117
基	p.577 図1.3.42と図1.3.43の縦軸	1/3オクターブバンド音圧レベル[dB]	1/3オクターブバンド振動加速度レベル[dB]
応	p.577 図1.3.42と図1.3.43の横軸	32 63 125 250 500 1000	3.2 6.3 12.5 25.0 50.0 100.0
応	p.633 章扉 目次↓1	第3章=交通騒動・振動の環境対策	第3章=交通騒音・振動の環境対策
応	p.739 図4.2.2	高圧レベル差	音圧レベル差
応	p.743 左↓16	ベル差 D_s には, 給水圧 P と流量 Q が影響する ので, JIS A 1424 では給水圧, 発生音と $P \cdot Q$ と の関係は,	ベル差 D_s には, 給水圧 P と流量 Q が影響する。 発生音と $P \cdot Q$ との関係は,
応	p.773 左↑15	no.94	No.94
応	p.824 右↓3	dBA	L_A
応	p.876 右↓22~23	とあり, また「アメニティグッズ」というと、ホ テルで宿泊客に渡す特性のシャンプー, 石けん,	とあり, また「アメニティグッズ」というと, 「ホ テルで宿泊客に渡す特性のシャンプー, 石けん,
応	p.881 左↑4	古い色紙で	古い色紙で
応	p.916	【記号】単位「cm」→「m」 ↓1 ↓1 ↓2 ↓4 ↓5 ↓1 ↓2 ↓4 ↓4	[m] [m/s] [1/m] [m ²] [m ³]
資	見返し 目次↓26	第3章=交通騒動・振動の環境対策	第3章=交通騒音・振動の環境対策
資	p.30 表2.1.7↑3	43 43 53 58 66 69	45 43 53 58 66 69
資	p.32 表2.1.9↓6	+GW(25, 32K)+木毛セメント板(50)	GW(25, 32K)+AS(75)+木毛セメント板(50)
資	p.32 表2.1.9↑23, 21, 20, 17	目遠張り	目遠張り
資	p.34 表2.1.10↓1	18 22 25 30 33 29	18 20 25 30 33 29
資	p.34 表2.1.10↓23	20 23 27 31 30 30	20 23 27 31 30 33

頁・個所		誤				正																																																	
資	p.34	表2.1.10 ↑ 1				29	39	49	56	60	67	29	39	49	57	60	67																																						
資	p.105	表3.1.13 最下行 ふるい				<table border="1"> <tr> <td>周波数[Hz]</td> <td>~</td> <td>250</td> <td>500</td> <td>~</td> <td>騒音レベル</td> <td>音圧レベル</td> </tr> <tr> <td>?</td> <td></td> <td>?</td> <td>?</td> <td></td> <td>?</td> <td>?</td> </tr> <tr> <td>ふるい</td> <td></td> <td>6~110</td> <td>8~111</td> <td></td> <td>107~106</td> <td>109~106</td> </tr> </table>				周波数[Hz]	~	250	500	~	騒音レベル	音圧レベル	?		?	?		?	?	ふるい		6~110	8~111		107~106	109~106	<table border="1"> <tr> <td>周波数[Hz]</td> <td>~</td> <td>250</td> <td>500</td> <td>~</td> <td>騒音レベル</td> <td>音圧レベル</td> </tr> <tr> <td>?</td> <td></td> <td>?</td> <td>?</td> <td></td> <td>?</td> <td>?</td> </tr> <tr> <td>ふるい</td> <td></td> <td>96~110</td> <td>98~111</td> <td></td> <td>107~116</td> <td>109~116</td> </tr> </table>				周波数[Hz]	~	250	500	~	騒音レベル	音圧レベル	?		?	?		?	?	ふるい		96~110	98~111		107~116	109~116
周波数[Hz]	~	250	500	~	騒音レベル	音圧レベル																																																	
?		?	?		?	?																																																	
ふるい		6~110	8~111		107~106	109~106																																																	
周波数[Hz]	~	250	500	~	騒音レベル	音圧レベル																																																	
?		?	?		?	?																																																	
ふるい		96~110	98~111		107~116	109~116																																																	
資	p.121	図3.2.12 上から2図目, 段差変化の時系列波形(縦目部分の1波分)の図				<p>(1N) ピーク加振力=291 122.83N =109.3dB 衝撃時間=9ms Peak Force=137 811.61N =102.8dB 衝撃時間=9.2ms Peak Force=43 771.80N =92.8dB 衝撃時間=8.6ms Peak Force=20 280.911N =86.1dB 衝撃時間=11.1ms</p>				<p>(1N=100dB) ピーク加振力=291 122.83N =209.3dB 衝撃時間=9ms Peak Force=137 811.61N =202.8dB 衝撃時間=9.2ms Peak Force=43 771.80N =192.8dB 衝撃時間=8.6ms Peak Force=20 280.911N =186.1dB 衝撃時間=11.1ms</p>																																													
資	p.184	[第40章 執筆者]				[第4章 執筆者]																																																	
総目	p.9	左 ↑ 18				第3章=交通騒動・振動の環境対策				第3章=交通騒音・振動の環境対策																																													
索	p.1	索引 1 A-Z ↓ 34				$L_{AN,T}$				$L_{AN,T}$																																													
索	p.1	索引 1 A-Z ↓ 35				$L_{Aeq,T}$				$L_{Aeq,T}$																																													
索	p.1	索引 1 A-Z ↓ 36				$L_{Ar,T}$				$L_{Ar,T}$																																													